

◆地区の概況

地区の概況

新横浜の都心地区に隣接しており、地区内に JR 横浜線小机駅、市営地下鉄ブルーラインの岸根公園駅があります。地区の北側は鶴見川に接する平地で、新横浜公園や日産スタジアムがあり、農地も残っています。地区の南側は起伏のある丘で、樹林地が残る住宅市街地になっています。

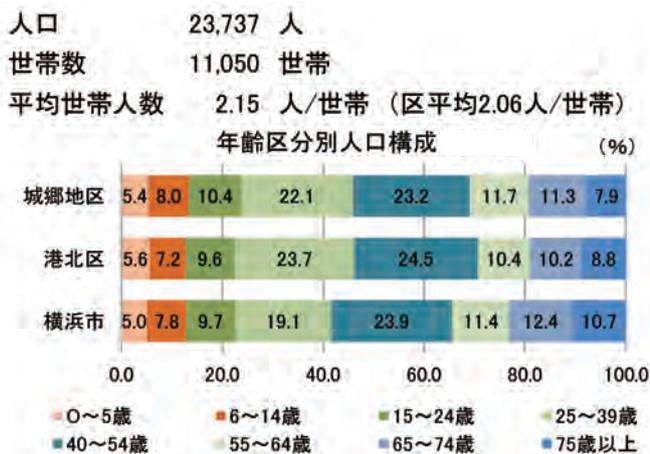
人口等の特徴

0歳代が転入増加する傾向が続いており、30～49歳が多い年齢構成になっています。平均世帯規模は区の平均を上回っています。今後とも、人口、世帯数は安定した状態が続きますが、65歳以上の人口の増加や14歳以下の緩やかな減少などの変化が進みます。15～64歳は人口減少が続き、比率も低下します。20歳代の転入増加が続いているため、20～34歳の年齢層が増加します。

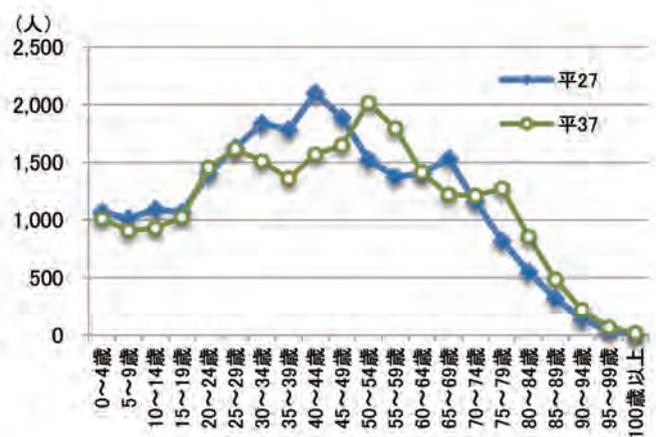
福祉保健活動の状況

家事等支援ボランティア、みんなの居場所の活用や運営支援、高齢者サロンや精神保健サロンの開催の他、発達障がい児の居場所事業、地区内の福祉保健活動のネットワーク化、見守り活動の定着化、担い手の確保などに取り組んでいます。

人口、世帯数などの状況 (平成27年9月末現在)



年齢別人口の現状と見通し



◆ 2期計画までの取り組みと 3期計画の方向性

●今までの取り組み

「誰もが安心して暮らせるまち城郷」の実現を目指し、高齢者サロン「城郷よってこ会」や障がいのある子どもを対象とした「しろさと地区放課後プラザ」の実施のほか、地域支えあい連絡会が中心となり、各自治会町内会の特色を生かした見守り活動の定着化を図りました。

また、地区ボランティア連絡会では、団体相互の交流と情報交換を密にするとともに、活動における問題解決や担い手育成に取り組みました。

あわせて、誰もが集える交流の場づくりとして、「ホッとカフェ」(みんなの居場所)の地域開放利用や、自治会町内会活動との連携強化を進めました。

●地域の現状と課題

農家や古くから住んでいる住民が多いエリアがある一方、住宅開発等で若い世代の増加も目立ち、新旧住民の交流や子育て支援が課題となっています。また、道幅の狭い道路や山坂も多く、後期高齢者や単身高齢者が増加傾向にある中、移手段の確保に困難を抱える住民も増えています。

●今後の方向性

これまでの実績を踏まえ、地域活動への理解促進と、より多くの方が活動に参加できる環境づくりを進めます。また、各町内会館やホッとカフェ(みんなの居場所)等の地域資源を活用し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える場づくりに取り組み、住民同士の「顔の見える関係づくり」を推進します。

◆ 計画推進の体制・振り返りの方法

地区連合町内会、地区社会福祉協議会をはじめ、地区ボランティア連絡会・地区民生委員児童委員協議会・地域支えあい連絡会等により「たすけあうまち城郷」推進委員会を構成します。

推進委員会は定期的に開催し、年度ごとに振り返り、推進体制や具体化に向けた進め方などを検証します。

◆具体的な取り組み

地域住民が互いに交流を深め、「顔の見える関係づくり」を進めるとともに、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指します

- 各町内会館や地域ケアプラザ、「ホッとカフェ」（みんなの居場所）などの地域資源を活かし、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える場づくりを進めます。
- 「ホッとカフェ」（みんなの居場所）への地域支援に、引き続き取り組みます。
- より多くの方が地域活動に参加できるよう、コミュニティバス等移動手段の検討を進めます。
- 保健活動推進員や地域で活動する各団体との連携を図り、体操や交流等を通じて介護予防、認知症予防と健康増進に取り組みます。



子育て中の世代が安心して暮らせるまちづくりを推進します

- 各町内会館等で行う子育てサロンの開催頻度を増やし、子育て中の親子が集まり、交流を深められるしくみづくりを進めます。
- 気軽に立ち寄り相談できるよう、常設のサロンづくりについて検討を進めます。
- 「しろさと地区放課後プラザ」の活動を継続して実施します。



地域住民が安心して暮らせるまちを目指します

- 孤独死や空き家が増えていることを踏まえ、地域支えあい連絡会を中心に、防犯パトロールなど日常における見守り活動の充実を図ります。
- 各自治会町内会や民生委員児童委員協議会等の連携により、災害時要援護者支援事業に対する取り組みを進めます。
- 地区内の小学生を対象とした、高齢者を理解する講演会を継続実施し、啓発を行います。



5年後、10年後を見据え、地域活動の核となる人材を確保します

- 「城郷ふれあいの会」等、既存の活動においてもボランティアが不足している現状を踏まえ、地区ボランティア連絡会を中心にボランティアの育成に取り組みます。
- 活動の幅がより広がるよう、男性にも担い手として加わってもらえるしくみを検討します。
- 将来の活動の担い手となることを見据え、若い世代へのボランティア活動に対する理解啓発を進め、人材の育成に取り組みます。



必要な人に必要な情報が伝わり、相談しやすい環境づくりを進めます

- 地域活動への理解を広めるため、自治会町内会活動との連携をさらに強化し、イベントカレンダー等の作成に取り組みます。
- 地域福祉保健活動のネットワーク化を推進します。
- 掲示板や回覧だけではなく、インターネット等も活用して必要な人に必要な情報が届くしくみを検討します。



「ひろがる」「つながる」「とどく」は、理解と参加の「ひろがり」による活発な地域づくり、人の「つながり」で進める安心なまちづくり、支援が「とどく」仕組みづくり、の3つの計画推進の柱を表しています。



【計画推進体制】

「誰もが安心して暮らせるまち城郷の実現」



活動風景（写真）



地区ボランティア連絡会



小学生向け見守り講演会



小机城址まつり



城郷ふれあいの会の活動



城郷よってこ会
(ミニよってこ会)



子育てサロン



しろさと地区放課後プラザ

◆ホットカフェ（みんなの居場所）

所在地：小机町 2468 番地

電話：045-473-6300

※ホットカフェ内に地区社協事務所を
設置、運営しています



● 地区の活動に関する問い合わせ ●

城郷地区社会福祉協議会（ホットカフェ内）

TEL 045-473-6300 FAX 045-473-6300

城郷小机地域ケアプラザ

TEL 045-478-1133 FAX 045-478-1155

港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

● 「ひっとプラン港北」に関する問い合わせ ●

港北区福祉保健課事業企画担当

TEL 045-540-2360 FAX 045-540-2368

Eメール ko-fukuhoplan@city.yokohama.jp

港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

Eメール info@kouhoku-shakyo.jp